

幸せな十年とこれから

習志野市立第六中学校 3年 森田 依藤

最近、私はこんなことを知った。

私の祖父がつい先日亡くなった。急にひどい頭痛が襲い、大学病院で診てもらおうと、もう救命はできないと言われ、祖父はそれを受け入れた。その時、祖父は病院の先生達に、十年間、命をいただき感謝しますとお礼を言ったそうだ。

祖父の病気が分かったのは十年前である。リンパがんという病気だった。治すのが難しく、抗がん剤を使ったあと、五百万円もするドイツの薬を使ってみませんかと提案された。

祖父はあまりの高額に驚き、それを受けるかすぐには返事ができなかった。そこで、家に帰って考えることにした。

その翌日、病院と市役所から連絡があり、病院からは医療保険が使えること、市役所からは高額療養費という制度が使えるということだった。高額療養費とは、医療費の自己負担が高額になった場合、一定の金額を超えた分が、市の税金から払い戻される制度だそうだ。

最終的に、祖父が払う分は、最初よりはるかに安い八万円で済んだということだった。

祖父の治療は成功し、七年が過ぎた。その間、一緒に登山を楽しみ、遠くへ何度も旅行し、お祭りに加わり、楽しい日々を過ごした。

ところが、またがんが再発した。

今度は病院で新薬を勧められた。その薬は一錠が一万円も必要であった。一日三錠で三万円となり、一年で一千万円を超えるということだった。

祖父は、これ以上、国や市のお世話になることは望まなかったが、病院や周りの人からアドバイスを受け、服用することにした。三年間服用を続けたが、私はその間も夏休みやお正月に尋ね、宿題を見てもらったり、一緒に図書館で調べ物をしたりした。

祖父の病気について、多くの費用を税金で払っていただき、十年の命をもらったことを知り、非常にありがたいと思った。

多くの人に払っていただいた税金によって祖父と過ごした十年は、とても楽しく、私にとってかけがえのない時間だった。

この経験を通して、感謝するだけではいけないと思い、税金について考えてみた。

税金はたくさんの方が一生懸命働いて得たお金が納められている。限りなくあるものではない。だから、本当に必要なことに、必要な人に使わなくてはならない。

今、私がすべきことは、身の回りに目を向け、無駄な税金を使わないことだと思う。不必要なごみを出さない、公共施設の物を大切に扱うなど節税できることは身近にある。その節税した分の税金で水害や土砂災害、病気の人を少しでも救えるようにしなければいけないと強く思う。

祖父と過ごした幸せな時間を、今度は私が恩返しするために、この経験を多くの人に伝え、節税に取り組もうと思う。